

# 375-55 **NEW** 五十嵐式ペッサリー抜去用 ダブルナットクスコ腔鏡

特許  
第6724262号



引き込み法用  
375-55-1M / 375-55-1S



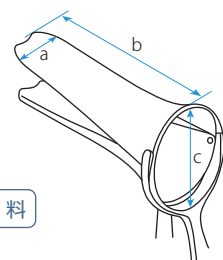
切断法用  
375-55-2S

※ソフトリングペッサリーは付属しません

材 質	ステンレス		
葉 機 法	クラスI 一般医療機器 届出番号 13B3X00115375055		
製品バリエーション	引き込み法用	サイズ M 375-55-1M	サイズ S 375-55-1S
	切 断 法 用	サイズ S 375-55-2S	

### ■サイズ表(m/m)

	a	b	c
M	24	100	48
S	20	92	44



国産品 動作不良3年間修理無料 見本貸出可 名入れ無料

※1 ご使用に伴って生じる傷や表面の劣化は対象外となります

❖ 実際にご使用できるデモ機をご用意しております ❖

## 本器と術式を考案された先生

公立富岡総合病院  
産婦人科 診療部長 五十嵐 茂雄 先生

ペッサリー交換での痛みや会陰裂傷を減らすために考案しました。使用にあたっては少々煩雑な手順とクスコ内に引き込み始めに多少のコツと力が必要なものになりましたが、現在患者の満足度は高いと思われま。当初の目的に加え会陰裂孔が伸びるのを防ぐことで臓器脱の悪化も防いでいるように感じています。はじめにペッサリーサイズに見合った位置に本器の内側ナットを置き、開いた腔鏡の一番狭いところを会陰裂孔の位置に保てると有効でスムーズな使用につながります。

帝京大学ちば総合医療センター  
産婦人科 病院教授 五十嵐 敏雄 先生

骨盤臓器脱に用いるソフトリングペッサリーは定期的な交換が必要で、通常は変形させて抜去と挿入を行います。ところが、ペッサリーは変形が大変で、抜去と挿入はときに痛みを伴います。ダブルナットでクスコの開きを固定してペッサリーを牽引したり、腔内でペッサリーを切断してサザエのように回転させたりする抜去法では痛みを感じなくなります。挿入ではペッサリーを手で小さく変形させてからクスコにはめて行うことが有用です。患者さんをペッサリー交換の痛みから解放してあげましょう。



ニッポンのクスメーカー ナミキの新製品

特許  
第6724262号

痛みを訴える患者さんのために

## ソフトリングペッサリーの抜去に クスコを使用をご提案です

手による抜去に比べて  
患者さんの痛みを低減できます

375-55

## 五十嵐式ペッサリー抜去用 ダブルナットクスコ腔鏡

特許権者・発明者

公立富岡総合病院 産婦人科  
診療部長 五十嵐 茂雄 先生

帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科  
病院教授 五十嵐 敏雄 先生



ご使用方法は2パターン

- 引き込み法** ペッサリーをクスコ内に引き込んで抜去
- 切 断 法** ペッサリーをクスコ内で切断して抜去

※ソフトリングペッサリー・鉗子類・  
シュミレーターは付属しません

実際にご使用できるデモ機をご用意しております

製造販売元



Namiki Medical Instruments

株式会社 ナミキ・メディカルインストゥルメンツ

〒132-0035 東京都江戸川区平井7-14-11

TEL.03-3610-0375 FAX.03-3610-3777

E-mail info@namiki-mi.co.jp

URL http://www.namiki-mi.co.jp

ニッポンのクスメーカー



株式会社 ナミキ・メディカルインストゥルメンツ

## 手による抜去は腔の入り口が広がって痛い でもこのクスコなら...

一度クスコを挿入すれば  
腔の入り口はクスコの幅よりは  
大きくは広がりません

2個のナットで  
開き具合を固定できるので  
不安定な開閉がありません

## 手による抜去到痛みを訴えていた患者さんの内 80%の方の痛みが低減されました

(帝京大学ちば総合医療センター 病院教授 五十嵐敏雄先生のご研究による)

2個のナットで  
開大度を固定



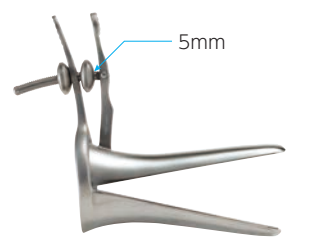
先端の窪みが  
ペッサリーを  
ホールド



### 引き込み法

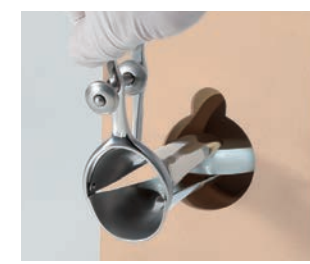
二つの弁に窪みがあるタイプ  
375-55-1M 375-55-1Sを使用

1 本器の内側ナットの位置を内側のハンドルから5mm付近に調整します。(外側のナットは本器の先端が閉じる位置に調整します。)

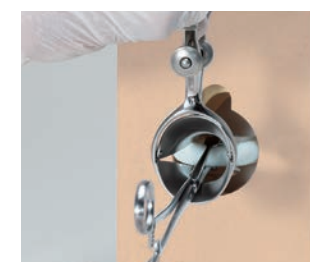


2 腔入口を指で広げながら本器の先端が閉じた状態で腔に挿入します。

3 ペッサリーを視認したらペッサリーが本器の二つの弁の間に挟まるようにします。



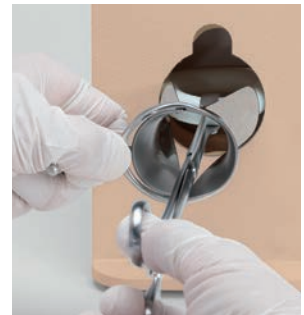
4 ペッサリーを引っ掛けるように塚原腔部鉗子などでしっかり把持します。



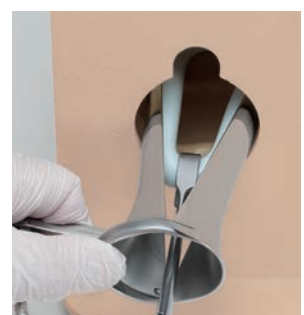
5 本器をペッサリー手前まで戻してから90度回転しペッサリーを先端の窪みにはめます。この時に外側のナットの位置を調整して本器の弁の開大度を固定します。開大度を固定しないとこの後の段階で患者様に苦痛を与えてしまいます。



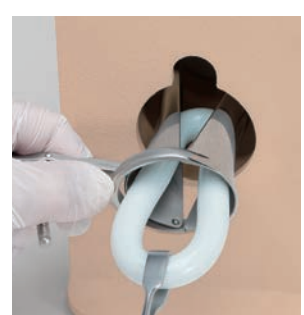
6 鉗子で固定したペッサリーに対して本器を押しこみ、本器の窪みをペッサリーに沿わせつつ本器を更に奥に押し込みます。腔壁が本器とペッサリーの間にいった場合は全体を軽く前後に動かして腔壁の挟まりを解消します。腔壁が挟まった状態で処置を続けると思わぬ事故につながりますので、必ず処置を中断して挟まりを解消してください。ナットの位置が不適切な場合は作業を戻し、位置を修正してからやり直します。



7 本器をしっかり押さえながら塚原鉗子を牽引しペッサリーを本器の中に引き込み、そのままゆっくりと抜去します。(この時本器の弁の開大度がペッサリーに対して不適切な場合は各ナットを調整して開大度を再固定します。)



8 二つのナットを操作して本器の弁を閉じて腔から外して完了です。ご使用前に「重要 使用上のご注意」を必ずご確認ください。

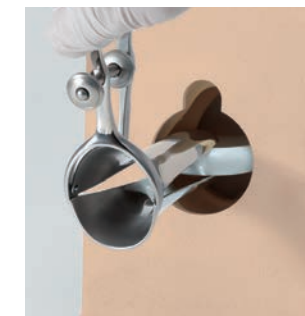


### 切断法

片側の弁にのみ窪みがあるタイプ375-55-2Sを使用

1 腔入口を指で広げながら本器の先端が閉じた状態で腔に挿入します。

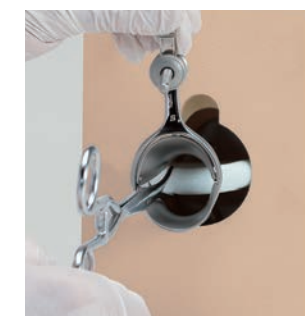
2 ペッサリーを視認したらペッサリーが本器の二つの弁の間に挟まるようにします。



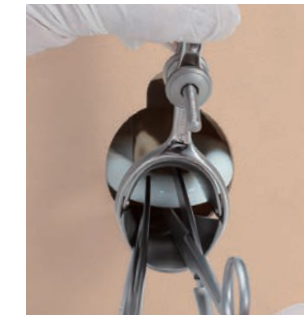
3 本器の二つのナットを調整して弁の開大度を固定します。



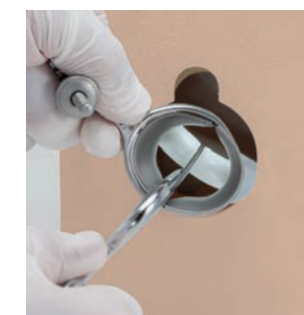
4 本器をしっかり押さえつつペッサリーをマルチン単鉗子で把持牽引します。



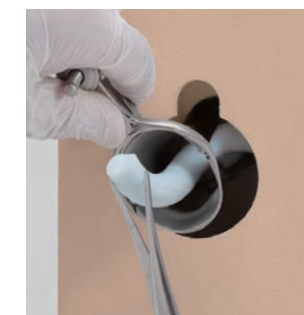
5 その後直クーパーを使用して本器内でペッサリーを切断します。



6 本器を45度回転させて、ペッサリーを掴んだマルチン単鉗子を時計方向にねじって、ペッサリーを本器遠位部の窪みにはめこみます。



7 引き続きマルチン鉗子を時計方向(肛門側)に回転させながら牽引し、サザエの身を殻から出すようにやさしく抜去します。



8 二つのナットを操作して本器の弁を閉じて腔から外して完了です。

ご使用前に「重要 使用上のご注意」を必ずご確認ください。

※ソフトリングペッサリー・鉗子類・シュミレーターは付属しません

### 挿入編

71mm以下の小さなソフトリングペッサリーなら  
痛みを低減しながらの挿入にも有用です。  
こつは「一気にところてんを押し出すように!」

挿入時のご使用方法 (71mm以下のソフトリングペッサリー)

初回にペッサリーサイズを決める時には必ず従来の手による挿入を行ってください。本器による挿入はペッサリーが滑るように入るため、患者様に合わないサイズのペッサリーでも挿入できてしまう場合があります。本器による挿入はサイズ決定後の交換時に行ってください。

1 本器の2つのナットを調整してペッサリーが通過するくらいの開大度に固定します。



2 潤滑用のゼリーをペッサリーの先につけた後、ペッサリーを手で小さく潰した状態にします。



3 ペッサリーを画像のように縦にして本器の先端から半分くらいの位置まではめ込みます。この時ペッサリーを本器から落とさないように注意してください。



#### ※重要 使用上のご注意

- ソフトリングペッサリーを本器内に牽引する時、ペッサリーと本器の隙間に腔壁を巻き込まないように十分注意してください。牽引時に本器を静かに前後させて状態を確認することが有効です。万が一巻き込んだ場合は本器を静かに前後させるか、2つのナットを緩めて本器とペッサリーとの隙間を広げるなどして解消してください。
- 本器の使用前には必ず内診などで腔壁癒着などで抜去不能な状態でないことを確認してください。またペッサリー再挿入前には本操作により腔壁等に不慮の裂傷などが生じていないことをご観察、ご確認ください。
- 本器を使ったソフトリングペッサリーの抜去・挿入に関する患者様の痛み低減とは、考案者が本器を使用した時に患者様の反応などを観察した私感によるものです。痛み低減を証明する数値的な根拠などはありませんのでご使用時は十分ご注意ください。